

# 大念佛

No.60

発行／融通念佛宗総本山  
大念佛寺  
大阪市平野区平野上町1-7-26  
TEL.06-6791-0026

薫風が人々の心を和らげ、憂いも少しとどめてくれる皐月、一日より五日まで約六六十年の伝統をもつ万部法要が厳修されます。

融通念佛宗管長 倍 巖 良 舜

法要のハイライトは二十五菩薩のおねりです。まず菩薩とはもとは悟りを求める衆生を指し、菩提心をおこし自利利他の為に六波羅蜜を行じ成仏をめざす人、



## 万部おねり

五月二日(日)～  
五日(木)

例えば行基菩薩のような高德の修行者はいいます。

もう一つは高い境地に達して、それぞれの立場から衆生の救済のために働き続けて下さる方、如来と同様の悟りを開いているのに衆生の近くで悩める衆生を救って下さる方、万部法要の二十五菩薩は後者の方で阿弥陀如来の下で活動して下さっている阿弥陀如来ファミリーです。中でもひととき有名な観世音菩薩です。字の通り「世の人々の音を観て」苦悩を救うという菩薩で、

いろいろな姿をもって現われます。聖観音を基本に、千手、十一面、馬頭、不空罽索、

如意輪、楊柳等いろいろな姿をもって衆生の抜苦与楽のために働き続けておられます。次に勢至菩薩は衆生済度のためにいろいろと智慧をしばって下さっています。次の薬王菩薩、薬上菩薩は兄弟で身心両面の治病に働いて下さっています。次の普賢菩薩は文殊菩薩と共に釈迦如来の脇侍であり、白象に乗って現れ、守護すると云われています。本宗の二十五菩薩は菩薩役という専門の僧侶の方々によって行われ、他に例を見ない立派なものです。

その他「楽役」「讃師」「座奉行」「布教師」等々大勢の方々の御奉仕により万部法要は立派に厳修されていきます。平成二十七年には開宗九百年、大通上人三百回御遠忌が奉修されます。あと四年と迫って参りました。教宣法要、記念事業、勸財会計と各部門に於いて準備が進められておりますので、檀信徒の皆様におかれましては絶大な御支援と御協力を御願ひ申しあげます。



菩薩伝供の様子

# 開宗900年記念 大法要

## 大通上人300回御遠忌

平成27年5月1日～5月7日

# 万部会・来迎供養について

融通念佛宗務総長 吉村 障 英

万部の渡御は入御と還御から成っています。入御は「お入り」のことであり、還御は「おかえり」のことです。

はじめに渡御の主役ともいえるべき菩薩について説明します。菩薩とは、般若心経に菩提薩埵とありますが、これを略して菩薩といいますが、菩薩はこの上なき覺りを求めて、さらなる人格の向上に努めるかたわら、世のため人のため身命を賭して救済活動を行う人のことをいいます。

来迎会の菩薩は阿弥陀仏という一切の苦悩から解き放たれ、真実にめざめた人の願いと活動を手助けするために、二十五体の姿をとって表現されています。阿弥陀仏も菩薩も幸ある国土と呼ばれる極楽浄土におられますが、そこに止住されているだけでは、私たちと遠くかけ離れた存在になってしまいます。しかし仏・菩薩は苦悩なく清らかで幸ある国土から、娑婆あるいは穢土と呼ばれる私たちの住む世界に降りて来て、救いの手を差し伸べてくださいます。これを来迎といふのです。

来迎というのは、仏・菩薩の救済活動を表現したものとはいえるでしょう。

## ◆本堂の荘厳

どこのお寺でも本堂には、私たちを救わずにはおかないという心強い誓いと大いなる願いのもとに、ご本尊をはじめ仏・菩薩がおられます。そしてその場所は、花・香・燈明の外に、茶湯、菓子、果物などの供物が献じられ、沢山の環珞のついた幢（はたほこ）、幡（旗）、天蓋（傘）などの法具がきらびや



かな荘飾に輝いています。

これを極楽の荘厳（厳かで華麗な飾り立て）といえます。まさに本堂は幸あふれる極楽浄土なのです。練り供養の入御は、菩薩の出発場所を娑婆と見立て、幸あふれる極楽へ入っていく過程を具現したものです。

阿弥陀経の中に、私たちの住む娑婆世界には、五つの大きな濁りがあると説かれています。劫濁（時代の濁りのこと）、天災地変、戦争、疫病、飢饉などが多くなること、見濁（よこしまな思想がはびこること）、煩惱濁（貪り、怒り、迷いなどの煩惱が燃えさかる浅ましいすがた）、衆生濁（人間の資質が低下すること）、命濁（衆生が短命になること）

以上、五つの濁りをいうのですが、大切なことは、濁りの中にあっても、しかも濁りに染まることなく、むしろその濁りを肥料として蓮の花があのかける花を咲かすように、苦悩の中にあっても、その苦悩を養分として、真実の喜び、幸せをつかみとることが教えられているのです。

私たちひとりひとりが菩薩なのです。みんなが共に幸あふれる世界に往きつくことを願って、入御

の式がとり行われます。

## ◆菩薩の伝供

本堂内に入御された菩薩がたは、幸あふれる国に往き着いた喜びと感謝の気持ち、伝供という儀式によって表現します。

伝供とは、仏さまに花や供物を順繰りに手渡しでお供えすることです。（二面写真参照）

本尊前で左右に分かれた菩薩は、菊、菖蒲、百合、しゃくやく、蓮の五種類の紙製の常花を、リレー式で御本尊にお供えします。

伝供の間、雅楽が奏され、仏徳を讃歎して声明が流れています。

雅楽は阿弥陀経に、仏国土には常に天楽（天人の奏する楽）が奏されているという記述に従っているのです。声明は四智讃といって、仏さまの偉大な智慧のはたらきを四種に類別して讃えた御文です。鏡のようにすべてのものを明らかに照らし出す大円鏡智、真理はすべての事物にゆきわたっていることを見究める平等性智、対象物を如実に観察する妙觀察智、人びとを救済して、なすべきところの事を成ずる成所作智、——この四つの智慧を、妙なる音曲にのせてほめたたえるのです。

## ◆散華

菩薩による伝供が終わると、堂内では法要出仕の僧侶によって散華が行われます。散華とは華皿に盛られた紙製の蓮の花びらをまき散らすことをいいます。

經典には、仏が説法されると、それを喜び讃えて曼陀羅華が天から降り注ぐとあります。曼陀羅華は天妙華ともいい、色よく芳香を放ち、高潔でこれを見る者の心を喜ばせるといわれる天界の花です。

このときも声明によって散華の句（華嚴経の御文）を詠じつつ、決まった箇所で一斉に花びらを撒

きます。

## ◆声明

大法要には必ず随所に声明が用いられます。声明は経文に音曲を付して称えるものですが、これは仏・菩薩とその住所である浄土の荘厳な様子をほめたたえるとき、または香、燈明、供物等によって仏を供養するときに用いるのです。

まさに声明は讃歎と供養の讃歌といえるでしょう。

## ◆紫金職

法要は前座と後座の二座に分かれています。前座の導師を勤めるのが、紫金職に任命された僧侶です。これは紫地に金欄模様の袈裟を着用するので、このようにいいますが、紫金職は宗内全僧侶の中で、最も僧歴の年数が古い僧侶すなわち最長老に与えられるもので、大層、荣誉ある資格です。

紫金職は毎年二月一日に就任し、二月二十六日の元祖良忍上人御忌（祥月ご命日の法要）、三月五日の再興大通上人御忌、七月七日の中祖法明上人御忌、そして万部という総本山の大法要に、一年間を通じて出仕されます。一年が過ぎると前紫金職として、その荣誉がいつまでも記録されてゆきます。

さて、紫金職は法要の趣旨を読み上げ、大衆（法要出仕の僧衆）とともに、阿弥陀経を誦誦します。

## ◆後座

次に楽僧による奏楽があります。この奏楽は供養楽といって、諸仏諸尊ならびに万部会の過去帳（これを万部経と呼び習わしています）に記された先亡諸霊の供養のために奏せられます。この奏楽の間に前座と後座が入替わりします。すなわち前座の導師、紫金職が高座を降り、代わって後座の導師、管長親下が、随伴の僧侶とともに席に着かれます。随伴の僧侶は称号

# 融通聲明コンサート

演題「獅子飛石伝説・獅子鹿阿弥陀の夢」  
五月三日 午前十一時より  
（京都大原良忍物語第二弾）

## ○出演

- 能楽師和泉流狂言方、小笠原匡ほか
- 融通聲明研究会
- 作品紹介

▲大原に残されたもう一つの良忍伝説「獅子飛石伝説」

京都市内から北へ約十五キロ。洛北の山里、声明と念仏のふるさとと呼ばれる京都大原……良忍上人の御寺「来迎院」。そして大原に残された「音無しの滝」伝説はよく知られています。

実はもうひとつ伝説があります。それは上人の唱える声明の調べがあまりにも美しく、山里大原に生息する獅子（鹿）が良忍上人の声明に陶酔して境内を駆け巡り、定めて不動の岩になってしまったというお話で、「獅子飛石の伝説」として伝えられています。来迎院の本堂が望める境内の高台にその獅子岩はそつと鎮座しています。

## ◆獅子（鹿）の夢模様…そして、その晴姿の能楽（能と狂言）

獅子（鹿）は、良忍上人の声明に耳を傾けながら、どのような夢を見たのでしょうか？良忍上人から九百年を経た今日、夢はどうな

っているのでしょうか？  
良忍上人の大成された声明が永く継承され、また発展していったほしい。そんな獅子（鹿）の夢は、私たち融通念佛宗徒の夢に通じているのかもしれない。



二十一世紀、平成の今日に至るまでの間に、良忍上人の唱えられていた声明をひとつの源流として、能楽という世界無形文化遺産が生まれました。その継承発展の晴姿はあたたか「声明の成仏」の姿とも言えるでしょう。今回は「京都大原良忍物語」第二弾『獅子飛石伝説・獅子鹿阿弥陀の夢』として、狂言の姿でこの日の万部会の本堂に展開いたします。

# 雅のハーモニ

今年で十回目の楽融会に依る雅楽演奏会「雅のハーモニ」を万部法要四日目（五月四日）午前十一時より本堂に於いて行います。

管絃は「志越調音取」に続き「新羅陵王急」、そして舞楽は「振鈴」の後、童子舞「迦陵頻急」を最後

に「北庭楽」を演奏します。  
日頃あまり聴くことのない音楽を大きな御堂で、しかも御仏様の前で聴く。そんな雅楽はあなたの心をゆったりさせることでしょうか。是非御参詣頂きます様御案内致します。

寺院といつて、多年、宗門に功勞のあった宿老の僧侶が勤めます。管長猥下はここで、二百年以上前から永代供養として結縁された万部経を頂戴し、その追善を祈られます。

因みに本年の万部おねりにおいて、実に七十三年ぶりに興の渡御が復活します。この興に万部経を納め、来迎橋を渡御し、本堂内に入ると、所定の靈壇に万部経を安置し、それを管長猥下が回向されるわけです。御遠忌を控え、興渡御による永代供養の万部結縁回向を、広く皆さまにお願ひ致したく存じますので、何卒よろしくお願ひ致します。



◆内外十念

管長猥下導師のもとで再び阿弥陀経を誦し、念仏同唱が済むと「この法要の功德をあまねく一切の人びとに及ぼし、皆ともに清らかな仏の道を成就できますように」という意味の御文によって、一座の法要は終わりを告げます。念仏同唱の間に管長猥下は高座の上に立ち、この御文のあと内外十念を称えられます。まず内陣側ご本尊の方に向かい、導師は一声、「なむあみだぶ」と称え、それを呼応する。これを十遍くり返します。これを「切り十念」といいます。

ご本尊への切り十念が済むと、導師は本堂外陣の方に向き直ります。すなわち外に向かつて先きほどと同じく切り十念を称えられます。このとき参詣者は頭を低く垂れ、合掌して念仏を唱和します。これを内外十念というのですが、ご本尊に向かつては、報恩謝徳の思いと私たちの所願成就を祈つて称える十遍の念仏であり、外陣すなわち参詣者に向かつては、仏性開發といつて、人びとがおのが心に仏さまと同じ美しく清らかな花が開くことを願つての十遍の念仏であります。

◆還御  
本堂内での様々な儀式とおつめが済むと、還御の式に移ります。還御とは、ただ来た道を帰るといふものではありません。喜びあふれ幸かがやく世界に至りついた人びとは、もう一度、苦悩の娑婆世界へかえり来て、人びとの苦悩を救うはたらきをしなければならぬという勤めがあるのです。この勤めを果たすために、再びこの濁りの世に帰って行くことが還御の式であります。

◆融通のはたらき  
万部法要で誦誦されるお経は阿弥陀経です。このお経を法要期間中に一万部誦誦するところから『万部』という名称が生まれました。ここで融通念仏の原理を説明しておきましょう。

◆融通念仏

融通念仏は一人の称える念仏が他の人びとに融け入り、また他の人びとの念仏が一人の中に融け入って、大きな念仏のひろがりが出て、念仏の輪(和)に包まれる。その力によってともどもに苦悩を離れ、幸せの世界を今ここに築きあげると説くのです。

浄土の法門では往相、還相の回向ということを重視します。すなわち念仏の功德によって浄土に生まれることを往相といい、大慈悲心のもよおすところ、再びこの世にかえって迷える人びとを救うことが還相です。これを練り供養にあてはめると、入御は往相であり、還御は還相であります。

二十五菩薩は阿弥陀仏の衆生救済(人びとを救いよること)の使命を帯びて、私たちのすぐそばに帰ってきてくださるのです。そして私たちも今いただいているこの喜びと幸せを多くの人にまわし向ける努力をすることが大切なことあります。なぜなら私たちはみんな菩薩であるからであります。

◆阿弥陀経について

阿弥陀経は極楽と名づける苦悩なく喜びと感謝が満ちあふれる幸ある国土の有様と、そこにおられる阿弥陀仏という人格の完成者と、それをとりまく菩薩がたの様子、さらにはそこに生まれる方法を説いたお経です。幸ある国土には、七重の石垣、七重の並木が連なり、きれいな蓮池があり、白、紅、黄、青の四色の大きな蓮華が咲き、池の底には七宝が敷きつめられていてと説かれています。また常に天上の音楽が演奏され、大地は黄金色で美しく、天からは妙なる花が降り注いでいます。

まさにこの国は、宝石や珠玉によって飾られ、すばらしい環境の中にあるのです。人びとはこの幸ある仏国土に生まれることを願うべきである。なぜならここでは先に行つたいとしい人と会うことができ、しかも二度と別れるという悲しみはない。これを『俱会二処』といい、古来、阿弥陀経への深い信仰を集めてきました。

それではこの幸ある国にどうすれば生まれることができるのかというと、それは一心に南無阿弥陀仏と称えることであると説かれます。『執持名号』といつて、常に名号すなわち南無阿弥陀仏を放さないことであると説かれます。喜びにつけ、悲しみ、苦しみにつけ、どんなときでも南無阿弥陀仏を人生の灯明として、片時も放さないという生き方です。ちょうど幼児が母親の手をしっかり握って放さないなら、迷子になる心配はない、安心しきつて祭りの見物もできるというようものです。

過去、現在を通じてあまねく多くの人びとにゆきわたって、ともに幸ある国に行き着くことを願って修される法要ということになります。幸ある国に行き着くと述べましたが、本当は幸ある国を掘り当てる、見出し出て行くということであり、見つけ、わが足許をしつかり見つけ、日常生活のささいな一こまずつの中から、喜びと幸せの芽吹きを見つけ、それを育てていくということでもあります。

仏教讃歌奉納

融通念佛宗聖歌隊は声学家の河田早紀先生のすばらしい歌声のお手本を聞きながら歌詞に気持ちを込める練習をしています。また、ピアノストの高木寿美先生には三つのパートをそれぞれ助けると言う至難の技で伴奏していただいております。お二人に助けていただきながら一ヶ月に二回楽しい時間を過ごしています。

そして、万部法要では「中祖法明上人讃歌」「いまささぐ」などの仏教讃歌や「つゆのごとく」他の歌を奉納いたします。歌詞もとてもすばらしいものです。私たちの歌により皆様の心があたたかくなり、一生懸命歌いますので是非お越し下さい。



魚山流 詠讃歌舞奉納

お釈迦様の教え即ち、お経に節を付けて唱えるという技術や作法、これを我々は声明と呼んでいます。この声明は比叡のお山に伝来し、元祖聖應大師良忍様が整備統一されましたが、末世の我々凡夫には解りづらいものでした。そこで誰にでも音の高低や旋律を解り易くするために、譜面に表現することが必要になってまいりました。現在我々が使っている融通声明や詠讃歌の譜面のもとになっているものです。詠讃とは詠歌・和讃のことです。

とで、詠歌は我が国では和歌を詠むこと、または和歌そのものを意味し、和讃は仏教讃歌の一種で七五音の句を連ねることが多く、これに曲節を付して朗唱する形態をとります。詠歌は節もの、和讃は語りものです。詠讃歌は融通教会が永年にわたり引き継ぎ、数々の詠歌や和讃が魚山流詠讃歌として作詞作曲されました。その譜面の完成度の高さや音階の美しさから、他流には類を見ないと評価されるほど味わいと深みがございます。

世界平和祈願護摩供養

万部法要の最終日には平野五流講による採燈大護摩供が行われます。山伏によるお練りがあり、本堂での勤行の後、平野五流講の道場である「龍王殿」の前に設けられた護摩道場にて厳修されます。護摩供とはもともとはインド伝来の密

教の秘法で、火を焚いてその中に供物を投げ入れてご本尊を供養し、その加護を願う儀式のことです。この大護摩供には戦没者の追悼供養・世界平和の願いが込められており、毎年百名にも及ぶ山伏が集います。

# 平成23年度 万部法要各種奉納日程・時間表

平成23年5月1日～5日

日程 時間	5月1日 (日曜日)	5月2日 (月曜日)	5月3日 (火曜日)	5月4日 (水曜日)	5月5日 (木曜日)	日程 時間
6時30分	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行	6時30分
9時30分	おつとめ	おつとめ	おつとめ	おつとめ	おつとめ	9時30分
10時00分		大念佛寺 奉賛会 祈願法要				10時00分
10時30分						10時30分
11時00分	安堵念佛講	仏教讃歌奉納 聖歌隊	融通声明 コンサート	雅の ハーモニー	布教 田中瑞修師	11時00分
11時30分	八島念佛講				総長挨拶	11時30分
					魚山流 詠讃歌舞奉納	
12時00分	魚山流 詠讃歌舞 奉納	魚山流 詠讃歌舞 奉納	魚山流 詠讃歌舞 奉納	魚山流 詠讃歌舞 奉納	世界平和 祈願 護摩供養	12時00分
12時30分	布教 磯田良孝師	布教 南園義則師	布教 福井邦典師	布教 森 佳覚師		12時30分
13時00分	総長挨拶	二十五菩薩 お練供養 入御	二十五菩薩 お練供養 入御	二十五菩薩 お練供養 入御	二十五菩薩 お練供養 入御	13時00分
13時10分	二十五菩薩 お練供養 入御	二十五菩薩 お練供養 入御	二十五菩薩 お練供養 入御	二十五菩薩 お練供養 入御	二十五菩薩 お練供養 入御	13時10分
14時00分	おつとめ	おつとめ	おつとめ	おつとめ	おつとめ	14時00分
15時00分	二十五菩薩 お練供養 還御	二十五菩薩 お練供養 還御	二十五菩薩 お練供養 還御	二十五菩薩 お練供養 還御	二十五菩薩 お練供養 還御	15時00分
15時30分	二十五菩薩 お練供養 還御	二十五菩薩 お練供養 還御	二十五菩薩 お練供養 還御	二十五菩薩 お練供養 還御	二十五菩薩 お練供養 還御	15時30分
献花献茶	尾田社中	吉村社中	中島社中	高松社中	淡交会社中	献花献茶
教 区	大衆出仕寺院	大衆出仕寺院	大衆出仕寺院	大衆出仕寺院	大衆出仕寺院	教 区
1	茶臼山 観音寺	田 島 本覚寺	山之内 金林寺	今 里 観光寺	住 吉 宝泉寺	1
2	西 堤 大通寺	八 尾 清慶寺	久宝寺 念佛寺	今 津 源正寺	植 松 法覚寺	2
3	富田林 浄谷寺	小 吹 西恩寺	錦 織 極楽寺	半 田 風輪寺	甘南備 遍照寺	3
4	恩 智 来恩寺	教興寺 大通寺	恩 智 法立寺	神 立 正福寺	郡 川 常楽寺	4
5	阪 清岸寺	堀 溝 大念寺	太 秦 太秦寺	茄子作 本誓寺	春 日 大聖寺	5
6	畠 田 常楽寺	王 寺 岩松寺	立 野 大通寺	坂ノ上 観音寺	下 田 香性寺	6
7	十 市 本願寺	桜 井 来迎寺	北松垣 瑠璃光寺	竹 田 融宣寺	蔵 堂 浄福寺	7
8	東安堵 大寶寺	西安堵 観音寺	中窪田 常德寺	今国府 金輪寺	唐 院 浄徳寺	8
9	藤 尾 石福寺	萩 原 応願寺	俵 口 阿弥陀寺	山 崎 安養寺	南田原 長楽寺	9
10	木 津 西教寺	奈 良 徳融寺	奈 良 法徳寺	大安寺 融福寺	櫛 本 大興寺	10
11	南 畑 禅入寺	龍 田 仙光寺	龍 田 靈雲寺	龍 田 六齋寺	龍 田 仙光寺	11
12	大字陀 光明寺	塩 井 明安寺	名 張 宗泰寺	三本松 頓光寺	伊賀見 地藏寺	12
13	稗 田 常楽寺	小 泉 維摩寺	郡 山 圓融寺	山 田 蓮光寺	西九条 井戸寺	13
14	清 水 宝泉寺	西 町 稱念寺	東 野 西迎寺	奥 本 曼陀羅寺	菩 提 長円寺	14

※今年度の寺庭婦人会主催のバザーは中止になりました。  
※各内容については変更する場合があります。

## 稚児おねりの ご案内

■日程 五月一日～五日  
■費用 一人一日 八千円  
(一切の費用を含みます)

※白足袋か白ソックスを必ず持参下さい。  
※申込 参加希望日を大念佛寺事務所  
まで

電話〇六一六七九一〇〇二六

※雨天でも行います

※当日の申込は午前十一時まで  
受付しております。



### 特典

菩薩様との  
写真撮影を  
企画しております。



## 勧進ご案内

本堂に於きましてお練香(巻線香)並びにローソクの勧進をいたしてまいりますのでお供え下さいませ。またすようご案内申し上げます。また塔婆回向勧進も受付しております。

お線香 (巻線香)	五百円
ローソク 大(正面用)	二千元
ローソク 中(脇檀用)	一千元
瓦勧進	二千元

## 塔婆回向

万部中常回向(五日間) 五千元  
当日回向 (一日) 三千元  
※万部中常回向は万部が終わっても五日間ご回向致します。



融通念佛宗が加盟する全日本仏教会が推薦する映画「ブッダ」。この映画が2011年5月28日より全国ロードショーされます。

この映画「ブッダ」は手塚治虫が10年を費やして完成させた映画で、のちにブッダとなる男・シッダールタと、シッダールタと出会い心通わせた人々の壮大な(いのちのドラマ)を描いた映画です。

この映画を全日本仏教会は応援します。



手塚治虫の「ブッダ」- 赤い砂漠よ!美しく -

原作/手塚治虫 ナレーション・チャプラの母/吉永小百合  
監督/森下孝三 チャプラ/堺雅人  
脚本/吉田玲子 ストリー/スティーヴン・スピルバーグ/観世清和  
シッダールタ/吉岡秀隆

2011年5月28日(土)全国ロードショー

至新深江 至奈良  
至天王寺 JR大和路線 JR平野駅  
至天王寺 JR大和路線 平野駅前  
至天王寺 地下鉄谷町線 平野駅①②出口から北へ歩いて8分

●JR大和路線平野駅から南へ歩いて5分  
●大阪市バス平野駅前、近鉄バス平野元町6丁目下車すぐ  
●地下鉄谷町線平野駅①②出口から北へ歩いて8分

大坂市平野区平野上町1-7-26  
電話 (06) 6791-0026

だ い ね ん ぶ つ  
まんぶおねり

毎年、好評を頂いております「菩薩様塗り絵」も今年で五回目となりました。今回のデザインは「羯鼓」をお持ちになった「日照王菩薩様」です。今年も万部法要期間中、無料休憩所に於いて展示を行います。万部終了後には青年会僧侶による祈願成就の法要を行います。今年も多くの方のお願い事と作品をお待ちしています。

尚、塗り絵の用紙は大念佛寺本堂にあります。または、青年会ホームページ <http://yuzusei.com> からダウンロードできます。

青年会だより